

簡易経絡測定（A – B I）システム説明書

作 成 者	経絡測定研究会
作 成 日	2016年3月30日
最終更新日	2016年3月30日

目次

簡易経絡測定(A-BI)システム説明書	1
目次	2
機器構成	3
本体装置・付属品 一覧	3
本位背面	4
関電極	4
不関電極 手首用	5
不関電極 足首用	5
不関電極用 ゲル剤	5
簡易経絡測定(A-BI)システムファイル	6
利用可能なパソコン(PC)	7
ソフトウェアのセットアップ	7
システムファイルをパソコンにコピー	7
USB 通信ドライバーのインストール	7
Communication Port 番号の確認	8
システム・プログラムの解説	10
A-BI.EXE メインメニュー	10
メニューバーの処理	10
メインメニューのプログラム	17
表示印刷	20
履歴	26
測定環境	29
測定室の環境	29
被検者の姿勢	29
機器接続	29
被検者との接続方法	30
関電極のセット	31
測定作業の手順	32
パソコン接続・電源	32
プログラムを起動	32
回路調整	32
校正	32
氏名・備考入力	32
順次測定	32
チャート表示・印刷	33
～測定練習～	33

機器構成

本体装置・付属品 一覧



(図-1)

本体前面



・右LED(POW/DATA)

本体を PC に接続して電源スイッチをオンすると、点滅し始めます。

装置動作中、連続点灯します。

・左LED(USB)

PC に所定のドライバーがインストールされていて通信可能な状態にあるとき、電源オンした後、3 秒位緑色で点滅します。

PC へのデータ送信中、赤色に一時点灯します。

・電源スイッチ

・ジャック

(図-2)

・ターミナル(赤)

通常、不関電極を接続します。3Vパルスの(+)側です。

・ターミナル(黒)

通常、関電極を接続します。3Vパルスの(-)側です。

※関電極と不関電極を逆接続しても測定できます。その方が正しく測定できるという見解があるようです。

本位背面



(図-4)

USB(A タイプ)と USB(mini-B)のケーブルを使います。

(図-3)

関電極

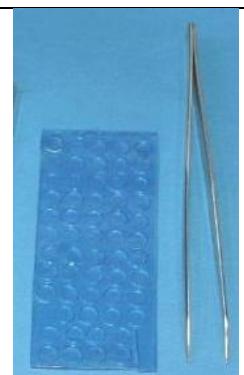


(図-5) 関電極
本体上部の黒い凸部が読み取りボタン



(図-6) 持ち方

人さし指で読み取りボタンを押します。



(図-7) ゲルシート

電極部(図左)は、内径 6mm 透明アクリルパイプ内に金メッキした真鍮製丸棒が固定されています。

丸棒先端面に、厚さ 1mm 直径 6mm のゲルシート(直径 6mm)を張り付けて使用します。

ピンセットは、その貼り付け作業に使用します。

ゲルシート 1 枚で 2~3 人測定できます。

ゲルシートは消耗品です。

不関電極 手首用



手首に固定する電極です。
クリップ内側の金属板に少量のゲル剤を付けて使います。

(図-8)

不関電極 足首用



通常、足首に固定する電極です。
手首が太く上記本来の手首用では小さい被検者は手首に
使ってください。

クリップ内側の金属板に少量の導電ゲル剤を塗って使います。

(図-9)

不関電極用 ゲル剤



不関電極の通電をよくするために電極の金属面に塗付します。
市販のマッサージ用ゲルです。
この品種に限らず水溶性で測定作業中、吸収されず皮膚面に定着するものならよいと思
います。

<市販品の例>

<http://www.iwata-tenjindou.co.jp/erepasygel.htm>

(図-10)

簡易経絡測定（A-BI）システムファイル

通常、CD-R ディスクで提供しています。

※インストーラはありません。¥A-BI フォルダー全体を PC の任意ドライブ(D:¥など)にコピーしてください。

メインフォルダー	サブフォルダー
¥A-BI (システムプログラム関係) AMI_FT.EXE AMI_FT.INI AMI_FT.PRJ ARAGOWQS.DLL ARGEEXT.DLL ARGIMM32.DLL ARGMCI32.DLL ARGNET32.DLL ARGRUN.DLL ARGUT16.DLL ARGUT32.DLL CCtrl.dll	¥DATA AMIDATA.DBF … 測定値が保存されるデータファイル ¥固定 CALC.STRU VOL_1-2.JPG 上半身前面.jpg 上半身背面.jpg 井穴 24.DBF 井穴名 6.DBF 井穴図横 YX24.DBF 井穴手足.jpg 井穴手足 YX.DBF 井穴手足逆.jpg 井穴横 24.JPG 井穴横自 24.JPG 手平.jpg 手甲.jpg 経絡と症状.DBF 経絡流注.DBF 経絡相関.STRU 虚実疾患.DBF 要穴図座標.DBF 設定 N.DBF 足.jpg 陰陽 6 経.DBF 陰陽 6 経.STRU 集計 12 経 N.STRU ¥DOC システム説明書.PDF
	¥CDM2.08.30WHQL Certified (USB 通信ドライバ。Windows7 以前の 32bit 版 PC 用) CDM 2 08 30 Release Info.rtf CDM v2.08.30 WHQL Certified.exe

<http://www.ftdichip.com/Drivers/VCP.htm> … 最新ドライバ入手先

利用可能なパソコン(PC)

WindowsXP, Vista, 7, Windows8.1 で動作確認しています。

Windows10.0 は未確認。

USB ポートを使用します。モニタ画面は、1024×768 ドット以上必要です。

同一 PC に、本装置と、上記同一 USB 通信ドライバを使用する他の装置とを同時に接続して利用することはできません。

ソフトウェアのセットアップ

システムファイルをパソコンにコピー

- インストーラ(プログラムをインストールするソフトウェア)はありません。
- 上記システムファイルの「A-BI」フォルダーを、そのまま PC 内の任意ドライブにコピーして下さい。
- (例えば、C:¥A-BI, D:¥A-BI となるように。)
- コピー先 ¥A-BI フォルダー内の A-BI.EXE を起動すれば、プログラムが起動します。
- デスクトップ画面に、A-BI.EXE のショートカットを作成しておくとよいでしょう。
(¥A-BI フォルダーを開いて、A-BI.EXE を右クリックしながら、デスクトップ画面にドラッグ&ドロップして「ショートカットを作成」を選択する。)

USB 通信ドライバーのインストール

※本体装置は、PC へのドライバインストールが終了するまで、接続してはいけません。

Windows7 を例に説明します。

- 「CDM 2.08.30 WHQL Certified」フォルダー内の CDM v2.08.30 WHQL Certified.exe を画面指示に従って実行してください。



実行開始画面
指示にしたがつて実行する。
終了すると再起動が要求されるので、
再起動する。

(図-11)

Communication Port 番号の確認

- 測定装置を USB ケーブルで PC に接続して電源スイッチを ON してください。

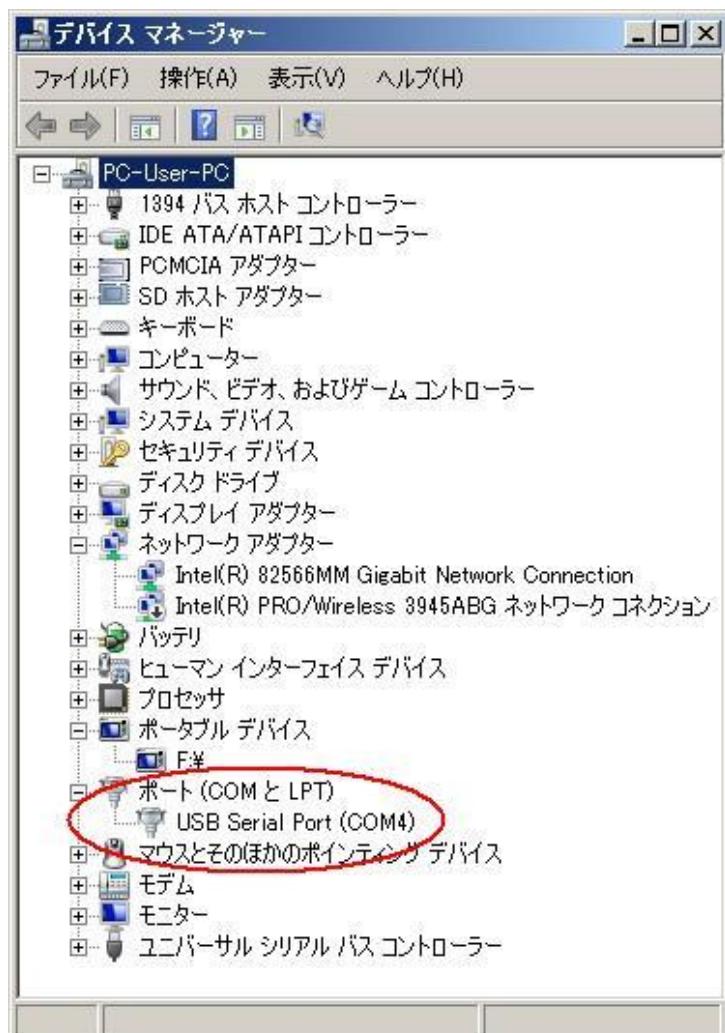


すると、左右 2 つの LED が点滅しはじめて、Communication Port 番号(COM 番号)が決まります。

3 秒ほどすると、左側 LED は消燈します。

(図-12)

- COM 番号を、次の手順で読み取ってください。



・Windows7 の操作と表示例
コントロールパネル → デバイスマネージャ
USB Serial Port(COM?) の番号です。
この例では、「COM4」です。

(図-13)

- 測定装置への COM 番号の登録
¥A-BI フォルダー内の A-BI.EXE を起動してください。



(図-14)

設定 → COM 番号設定



全ページの例の場合、「COM4」と入力して「登録」をクリックしてください。

(図-15)

システム・プログラムの解説

A-BI.EXE メインメニュー



(図-16)

▽各処理実行中のキー操作(共通事項)

本システムは Arago for windows で開発しています。

入力画面では、以下の操作が便利です。

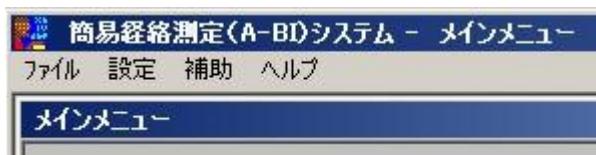
・入力欄が複数並んでいるとき、[Enter]で次の入力欄に移動でき、[Shift]+[Tab]で戻せます。

・ボタンが並んでいるとき、[Tab]移動し、[スペース]で選択できます。

・多くの場面で[Esc]で、プログラムを中止できます。

(終了の仕方が分からなくなつたときなど、押してください。)

メニューバーの処理



(図-17)

設定



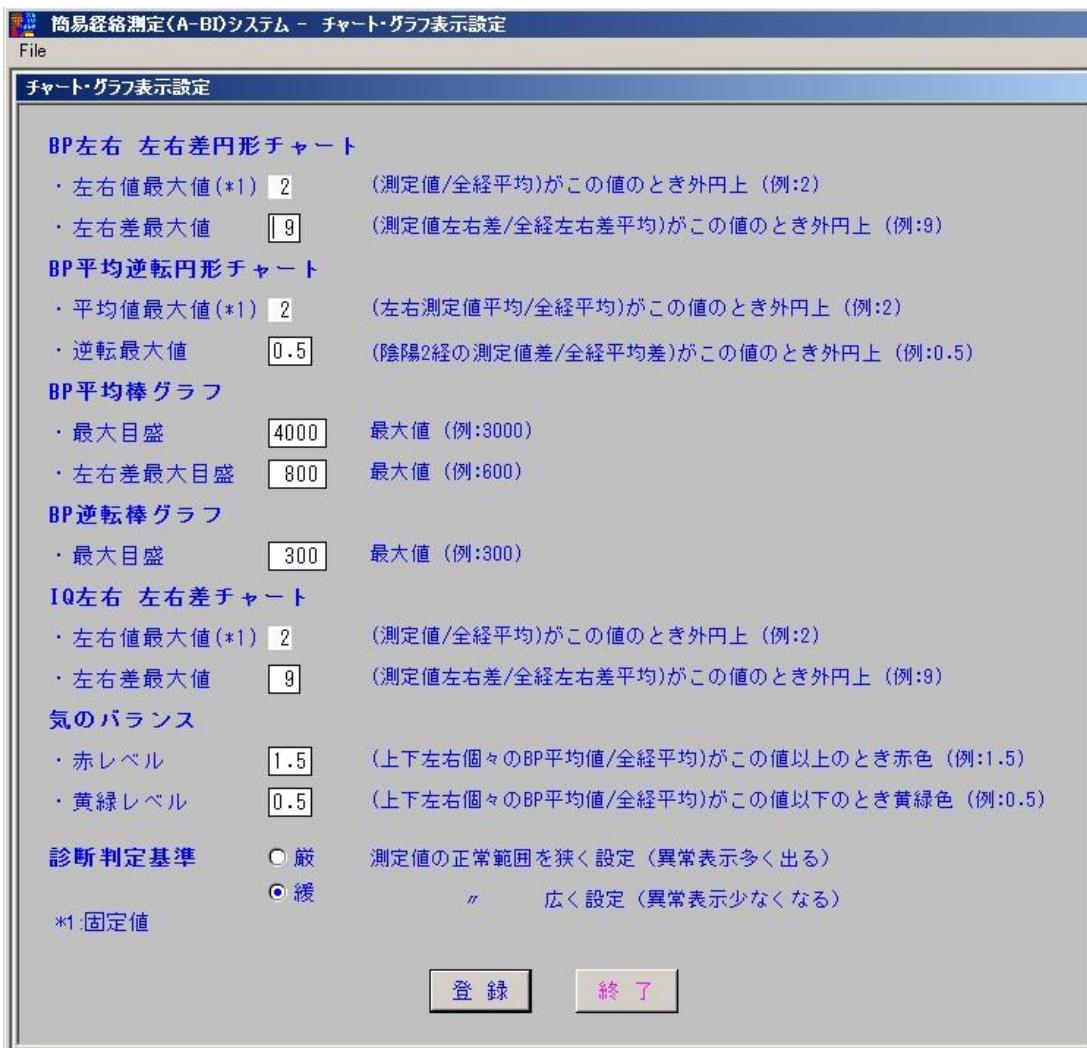
(図-18)

COM 番号設定



(図-18)

表示設定



(図-20)

[表示]/[印刷]機能の円形グラフ、棒グラフ類の表示条件を設定する画面です。
各グラフのプロット位置が、表示領域からはみ出したり、変化が小さすぎたりする場合、調整してください。

回路調整

電子回路のVOL調整

基準回路	測定値	適正值	調整個所
(1: CRなし)	APo	18	15~50
(5: 33K)	AP	671	[①オフセットVOL] [②基準電圧VOL]
	BP	560	
(3:1.5K+4700pF)	IQ	617	

本体背面VOL

・①VOLツマミは調整不要。②VOLツマミでBP値を調整してください。
・②VOLは、左側始点から右回しに約270度回転します。
左側始点がBP値最大で、右に回すほど低下します。
・最初500~600に仮調整し、測定作業中に測定値オーバー([****]表示)になった場合、測定を中止して、この画面で数値が低くなるように再調整してください。

再読み取り 終了

(図-21)

この画面では、BP・IQ=500~600 位であることを確認してください。



(図-22)

①オフセット

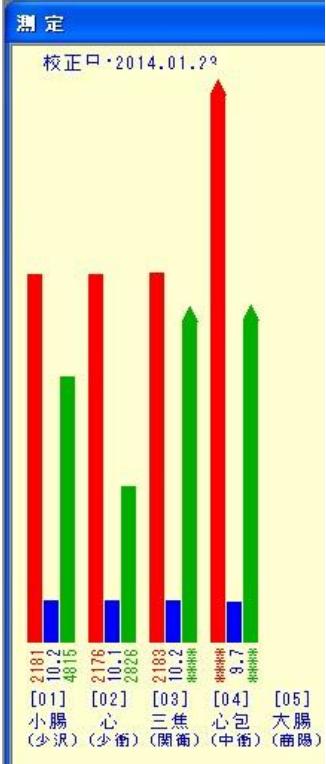
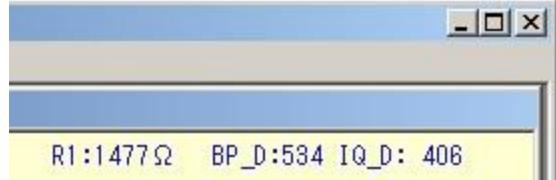
調整不要

②基準電圧

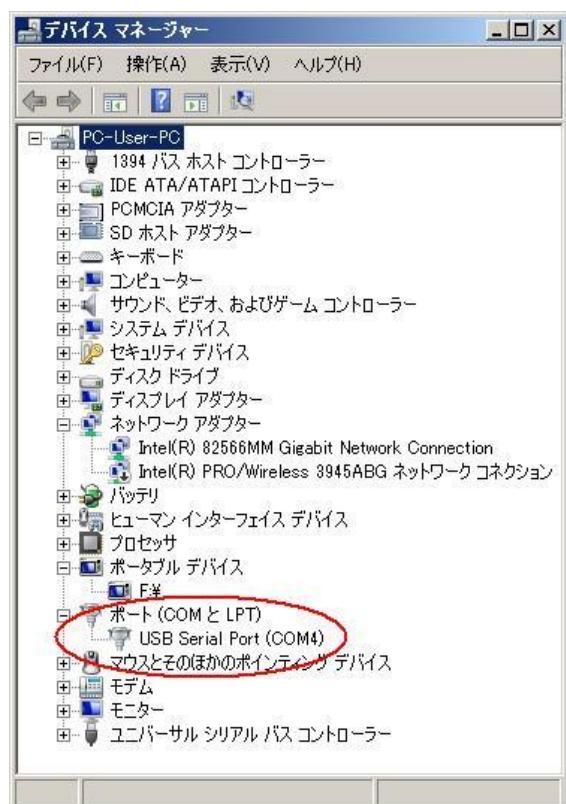
右まわし角度 →



(図-23)

*1 「読み取り可能レベルオーバー」	*2 読み取りデジタル値の表示
 <p data-bbox="269 1044 357 1073">(図-24)</p> <p data-bbox="214 1073 571 1102">棒グラフの先端が△になります。</p>	 <p data-bbox="738 460 825 489">(図-25)</p> <p data-bbox="722 523 1405 624">「BP_D:」「IQ_D:」が読み取りデジタル値です。 900程度になると、左のようにレベルオーバーで処理できなくなります。</p> <p data-bbox="722 658 1397 720">②基準電圧 VOL を大きく(右まわし)すると、数値が小さくなります。</p> <p data-bbox="722 725 1373 833">図-509 参照。 数値が小さければレベルオーバーになる惧れがありませんが、読み取り精度が低下します。</p>

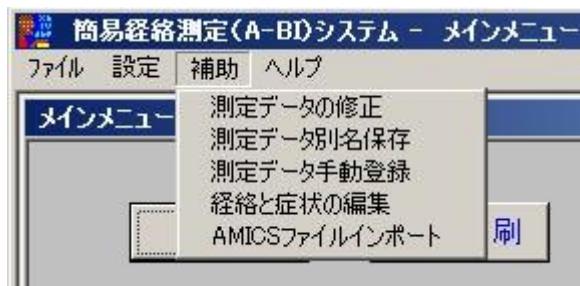
デバイスマネージャ



ここからでもデバイスマネージャを起動できます。測定装置が動作しなくなったときの設定確認用です。

(図-26)

補助



(図-27)

測定データの修正

測定データ AMIDATA.DBF の訂正 (氏名・備考のみ訂正可)							
番号	日付	時刻	氏名	備考1	備考2	備考3	BP2UA
0001	2014.02.25	11:51	002 TK			高山	2.898 0
0003	2014.04.13	08:16	001 ME				2.934 0
0004	2014.04.13	15:42	001 ME	サイクリング, 飲食後	pm 15:40		2.925 0
0005	2014.04.15	06:17	001 ME				2.953 0
0006	2014.04.16	07:22	001 ME		二日酔い		3.029 0
0007	2014.04.16	07:27	001 ME		2回目		2.986 0
0008	2014.05.06	08:18	001 ME				2.934 0
0009	2014.07.30	07:18	001 ME				3.956 0
0010	2014.08.08	07:01	001 ME	FT02-1			3.964 0
0011	2014.10.17	15:07	001 ME				3.453 0
0012	2014.10.18	11:36	003 TK	女・34			3.492 0
0013	2014.10.18	11:53	004 T.Y	女・40代 #31			3.492 0
0014	2014.10.18	12:20	005 H	男・50代 #32			3.498 0
0015	2014.10.19	11:48	006 M.M	女・37 #33			3.492 0
0016	2014.10.19	12:27	007 A.I	男・43 #34			3.505 0

※項目訂正の後[↑]または[↓]すると登録されます。 1件消去 終了 [↑] [↓] [TAB] [SHIFT]+[TAB]

(図-28)

測定データ別名保存

測定データ AMIDATA.DBF の別名保存 (氏名・備考を変更して保存できます)							
番号	日付	時刻	氏名	備考1	備考2	備考3	BP2UA
0001	2014.02.25	11:51	002 TK			高山	2.898 3
0002	2014.04.13	08:06	001 ME				2.939 3
0003	2014.04.13	08:16	001 ME				2.934 3
0004	2014.04.13	15:42	001 ME	サイクリング, 飲食後	pm 15:40		2.925 3
0005	2014.04.15	06:17	001 ME				2.953 3
0006	2014.04.16	07:22	001 ME		二日酔い		3.029 3
0007	2014.04.16	07:27	001 ME		2回目		2.986 3
0008	2014.05.06	08:18	001 ME				2.934 3
0009	2014.07.30	07:18	001 ME				3.956 3
0010	2014.08.08	07:01	001 ME	FT02-1			3.964 4
0011	2014.10.17	15:07	001 ME				3.453 4
0012	2014.10.18	11:36	003 TK	女・34			3.492 4
0013	2014.10.18	11:53	004 T.Y	女・40代			3.492 4
0014	2014.10.18	12:20	005 H	男・50代			3.498 4
0015	2014.10.19	11:48	006 M.M	女・37			3.492 4

※項目訂正の後[↑]または[↓]すると登録されます。 [↑] [↓] [TAB] [SHIFT]+[TAB]

ファイル名 AMI151120.DBF 保存ファイル取出 終了

(図-29)

過去の測定データが¥A-BI フォルダー内に表示ファイル名で保存されます。

USB メモリ等に転送してバックアップしておくといでしよう。DBF ファイルなので EXCEL 等でも開くことができます。

測定データ手動登録

測定データ手動登録

番号	0086		
日付	...		
氏名	...		
備考	...		
BP-左	BP-右	IQ-左	IQ-右
肺経
大腸
心包
三焦
心経
小腸
脾経
肝経
胃経
胆経
腎経
膀胱

※「隔経」と「八経」は登録不要です。

他のパソコンで測定出力された印刷チャートの測定値を目で読み取り、この画面で手作業で登録すれば、自分のパソコンで、表示・印刷することができます。

(図-30)

経絡と症状の編集

経絡と症状.DBFの編集

「経絡の変調と症状」表示制御用データ

[↑] [↓] [TAB] [SHIFT]+[TAB]

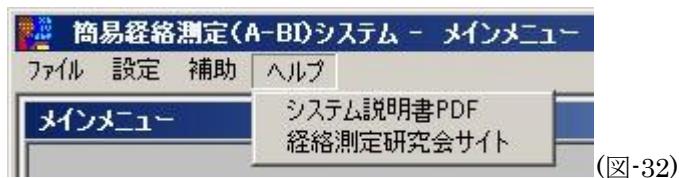
肺	大腸	胃	脾	心	小腸	膀胱	腎	心包	三焦	胆	肝	症状1	症状2	SORT
												右手痛(肺経沿)		1
+	+						+					喉がつまりやすい		2
+												息が苦しい		3
+	+	+										鼻づまり	喉が痛む	4
+	+	+										鼻血が出る		5
+	+											気管支が悪い	両足がもつれる(肺、大腸経沿いに)	6
		+	+				+	+	+		+	高血圧		7
				+	+	+	+					軽い腰痛		10
					+							右足痛	子宮筋腫の手術	11
						+						腹痛		12
	+	+	+									胃腸が弱い		13
	+			+								便秘		14
				+	+	+						ギックリ腰	腰から背骨が曲がっている感じがする	15
	+	+	+			+						太ももから膝が痛む		16
	+	+	+									胃炎		21

初期値は「経絡-臓器機能測定について」ほか(本山博著 宗教心理出版)からの引用編集データです。
 「経絡の変調と症状」実行時、「+」位置に「→」が入り、1行ずつ「SORT」数字が小さい順にリストアップされます。
 利用環境に合わせてデータを追加・削除してください。
 行内文字を追加訂正した場合[↑]または[↓]するとファイルが更新されます(表示されただけでは更新されません)。

(図-31)

印刷チャートを被検者に配布する場合は、ご自分の流儀で書き換えてください。

ヘルプ



(図-32)

システム説明書 PDF

本説明書の PDF 文書です。印刷できます。

経絡測定研究会サイト

インターネット接続している場合、経絡測定研究会の WEB サイトを表示しま

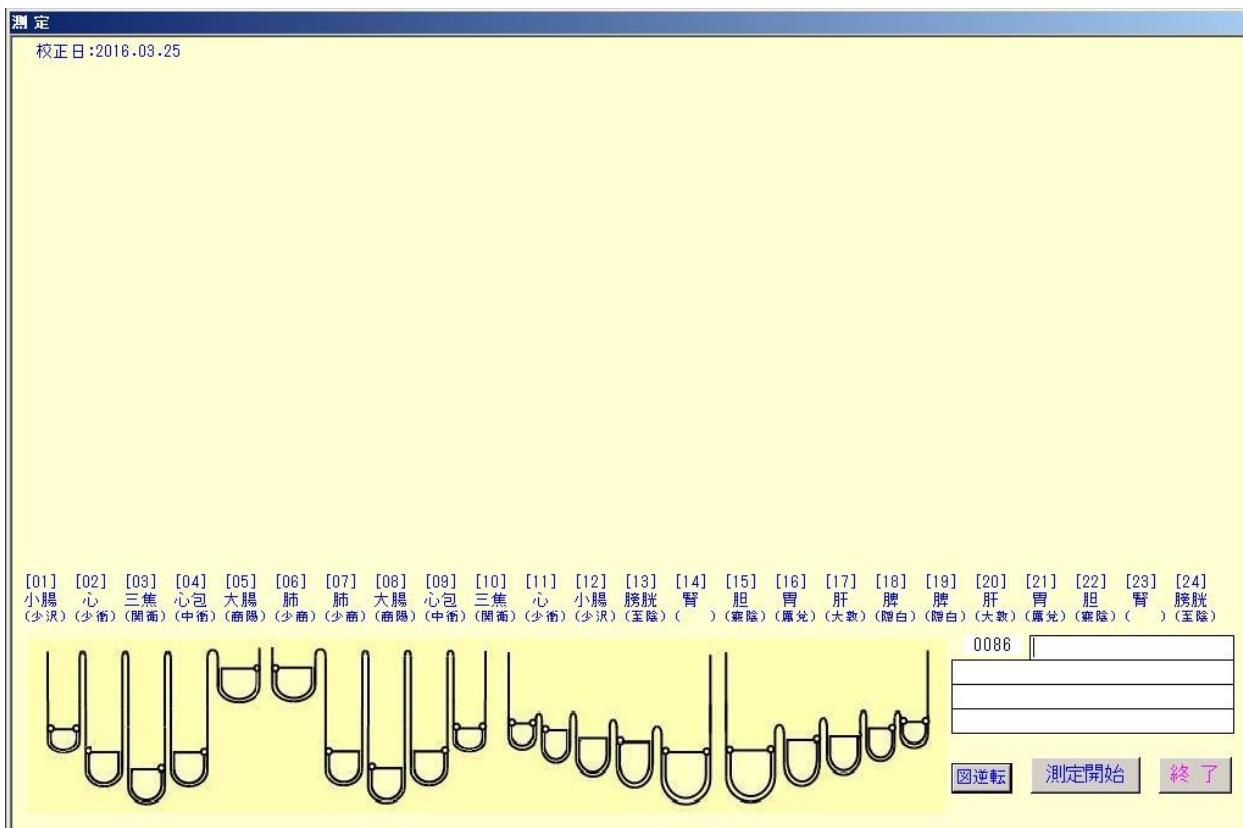
メインメニューのプログラム



(図-33)

測定

開始画面



(図-34)

登録項目



測定値と共に保存される情報です。

「測定開始」前に、氏名と備考を自由に入力してください。
氏名の前に「001」のように被検者毎に付与したID番号を先頭に入力してお
くと、後述の「履歴」表示で同一被検者が並ぶので便利です。

(図-35)

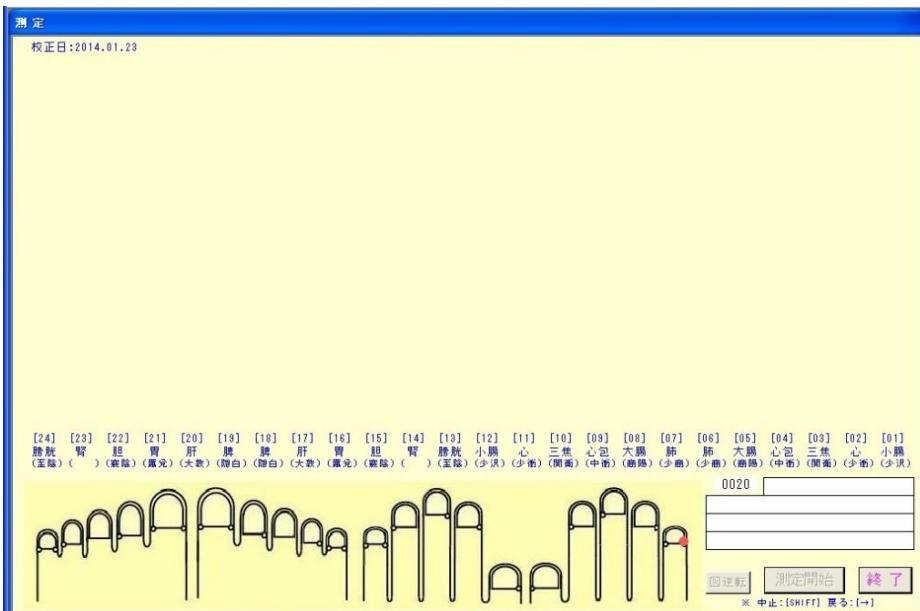
●印刷例

チャート印刷時、氏名と備考1が下図のように印刷されます。



(図-36)

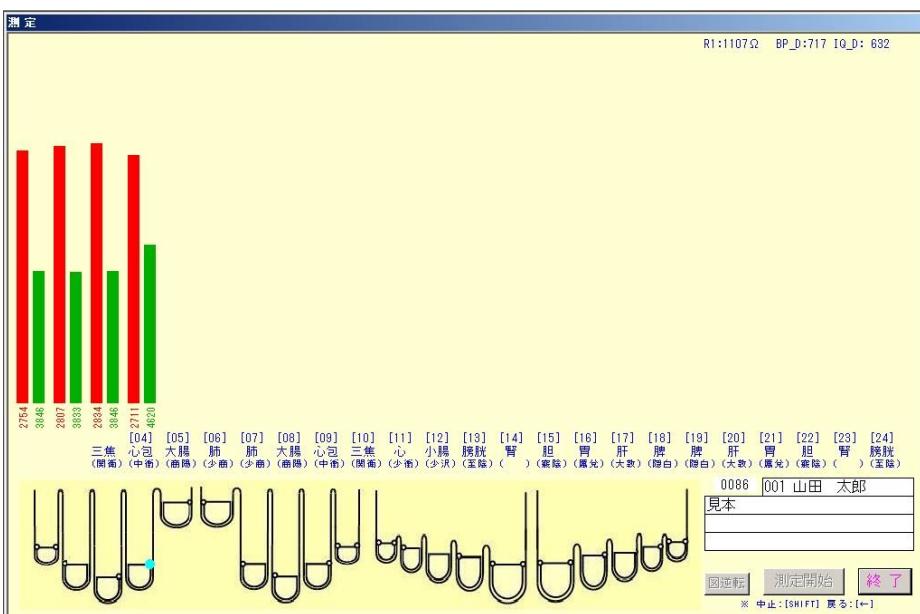
「図逆転」機能



・「図逆転」を実行すると、手足の画像の向きが反転します。
自分自身を測定する際に利用します。

(図-37)

「測定開始」後の画面



[←]キーで測定点がひとつ戻ります。

(図-38)

全ポイント測定し終わると・・・



- ・[登録]
測定データが登録されます。
- ・[戻る]
最後のポイントを再測定します。
- ・[中止]
測定データを登録しないで処理を中止します。

(図-39)

表示印刷

商易経絡測定(E-BD)システム - 測定結果表示印刷

File

測定結果表示印刷

番号	日付	氏名	備考1
0011	2014.10.17	001 ME	
0012	2014.10.18	003 TK	女・34
0013	2014.10.18	004 T.Y	女・40代
0014	2014.10.18	005 H	男・50代
0015	2014.10.19	006 M.M	女・37
0016	2014.10.19	007 A.I	男・43
0017	2014.10.19	008 M.A	女・40代
0018	2014.10.19	009 I.T	男・40代
0019	2014.10.19	010 K.Y	女・48
0020	2014.10.19	011 N.N	女・40代

チャート データ一覧 表示 印刷

経絡の変調と症状 鍼灸取穴参考図 戻る

(図-40)

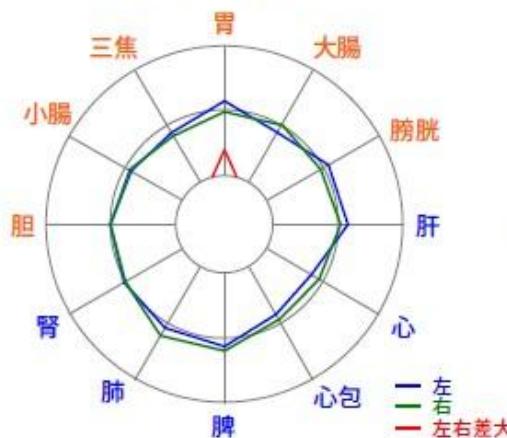
・被検者データと、出力する図表の種類を選択してください。

【表示】／【印刷】

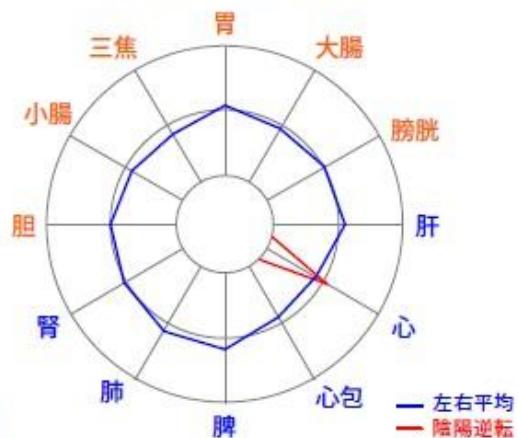
NO.0013 2014.10.18 004 T.Y 様

女・40代

--- BP 左・右・左右差 ---



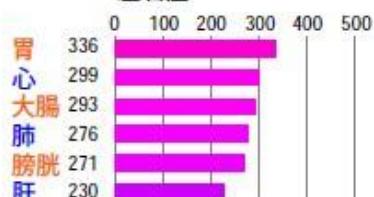
--- BP 左右平均・陰陽逆転 ---



---BP左右平均---



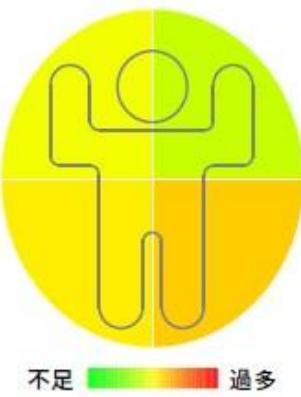
---左右差---



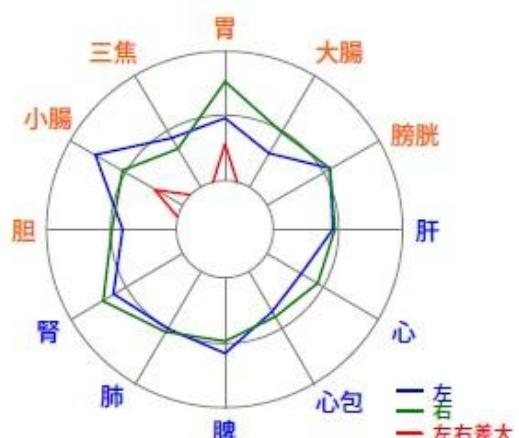
---陰陽逆転---



--- 気のバランス ---



--- 10 左・右・左右差 ---



※当ページグラフ類の表記法は「東洋医学 気の流れの測定・診断と治療」(本山博著 宗教心理出版)の事例を参考にしています。

(図-41)

棒グラフ目盛の最大値、異常表示「>」の表記条件等は、「表示設定」画面(P.21/32)で設定します。

【データ一覧】

		左	右	差	平均	左%	右%	平均%	差%
① 肺	BP	2163	2439	276	2301	1.075	△1.212	1.143	1.493
	IQ	1497	1578	81	1538	1.005	1.060	1.032	0.250
② 大腸	BP	1769	2062	293	1916	0.879	1.024	0.952	1.585
	IQ	895	1446	551	1171	0.601	0.971	0.786	1.706
③ 心包	BP	1697	1887	190	1792	0.843	0.938	0.890	1.028
	IQ	1071	1185	114	1128	0.719	0.796	0.757	0.353
④ 三焦	BP	1748	1651	97	1700	0.868	0.820	0.844	0.524
	IQ	1307	1031	276	1169	0.877	0.692	0.785	0.854
⑤ 心	BP	1583	1882	299	1733	0.786	0.935	0.861	1.617
	IQ	881	1346	465	1114	0.591	0.904	0.748	1.440
⑥ 小腸	BP	1815	1864	49	1840	0.902	0.926	0.914	0.265
	IQ	2299	1590	709	1945	1.544	1.068	1.306	2.195
⑦ 脾	BP	2279	2386	107	2333	1.132	1.186	1.159	0.578
	IQ	1703	1442	261	1573	1.143	0.968	1.056	0.808
⑧ 肝	BP	2334	2104	230	2219	1.160	1.045	1.102	1.244
	IQ	1373	1411	38	1392	0.922	0.947	0.934	0.117
⑨ 胃	BP	2334	1998	336	2166	1.160	0.993	1.076	◇1.817
	IQ	1449	2260	811	1855	0.973	1.518	1.245	2.511
⑩ 胆	BP	2022	2012	10	2017	1.005	1.000	1.002	0.054
	IQ	1228	1478	250	1353	0.824	0.992	0.908	0.774
⑪ 腎	BP	2104	2044	60	2074	1.045	1.016	1.030	0.324
	IQ	1819	2127	308	1973	1.221	1.428	1.325	0.953
⑫ 膀胱	BP	2189	1918	271	2054	1.088	0.953	1.020	1.466
	IQ	1662	1651	11	1657	1.116	1.109	1.112	0.034

【BP陰陽差】

肺 - 大腸	385
心包 - 三焦	92
心 - 小腸	□ -107
脾 - 胃	167
肝 - 胆	202
腎 - 膀胱	20

【平均】

BP	2011
IQ	1488

【手/足】

BP	0.877
IQ	0.823

【診断】

△	BP高(実)
▽	BP低(虚)
◇	左右差大(不安定)
□	陰陽値逆転(変調)
↑	興奮(変調初期)
↓	沈静(慢性化)

【ポイント解説】

	BP	IQ
経絡別	虚実の指標	—
左右差	該当経絡の変調。多くは一時的なもの。	—
陰陽差 逆転「□」	該当経絡の変調。恒常的に多くの場合、発症を自覚している。	—
平均	気(生命エネルギー)の充実度。 若年・老年・虚弱者。健常者・病人。	免疫・生体恒常性維持機能の活性度。 発症初期・炎症中・アレルギー体質者>慢性化・機能低下。
標準偏差	発病初期など免疫反応が活発なとき大きくなる。 測定操作が乱雑なときにもバラツキのため大きくなる。	同左。 BPの場合よりも長期間かけて変化する。
手/足	1が理想値。	1が理想値。
左/右	1が理想値。	1が理想値。

※上記「診断」は「経絡-臓器機能測定について」(本山博著、宗教心理出版)の「各経絡-臓器の機能興奮、低下、不安定を決める基準」に準拠しています。「ポイント解説」は、同氏の多数の著書の中の説明文を引用したものです。語句変更したところもあります。

【経絡の変調と症状の研究】

「経絡の変調と症状」の分析表作成

0013 2014.10.18 004 T.Y 様

次の経絡変調に対する分析表を作成します。

陰陽逆転 「実」 「虚」 不安定(左右大)

表示 印刷 戻る

(图-43)

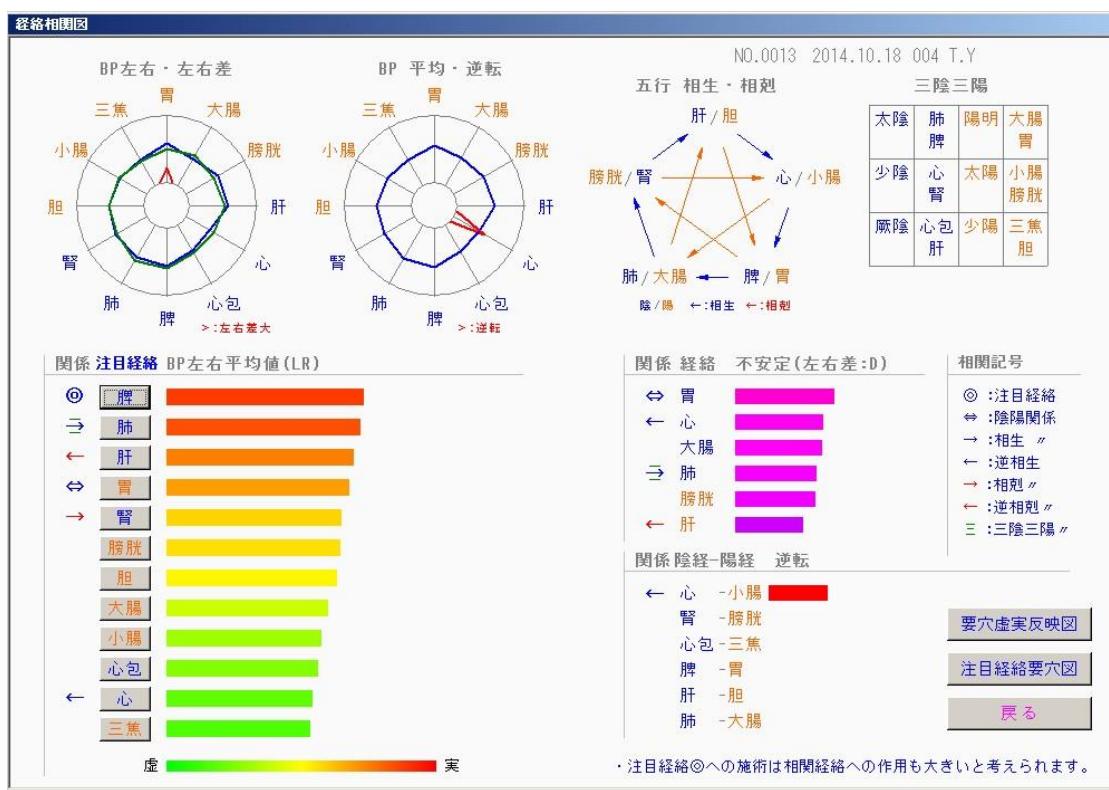
0013 2014.10.18 004 T.Y 様 【経絡の変調と起こりやすい症状】

虚 ★ ● ● ● ● ● ● ● 実 ◇ 不安定 □ 陰陽逆転 「★◇」は診断基準による判定結果です

※本表の経緯と症状の情報は、表記見本として「経緯・機器機能測定について」等(本山博著 宗教心理出版)の記事を引用しています。この情報は、ユーザ自身が「経緯と症状の編集」画面で変更追加削除できます。印刷配布する場合はご自分の流儀で書き換えてください。

(图-44)

【鍼灸取穴参考図】

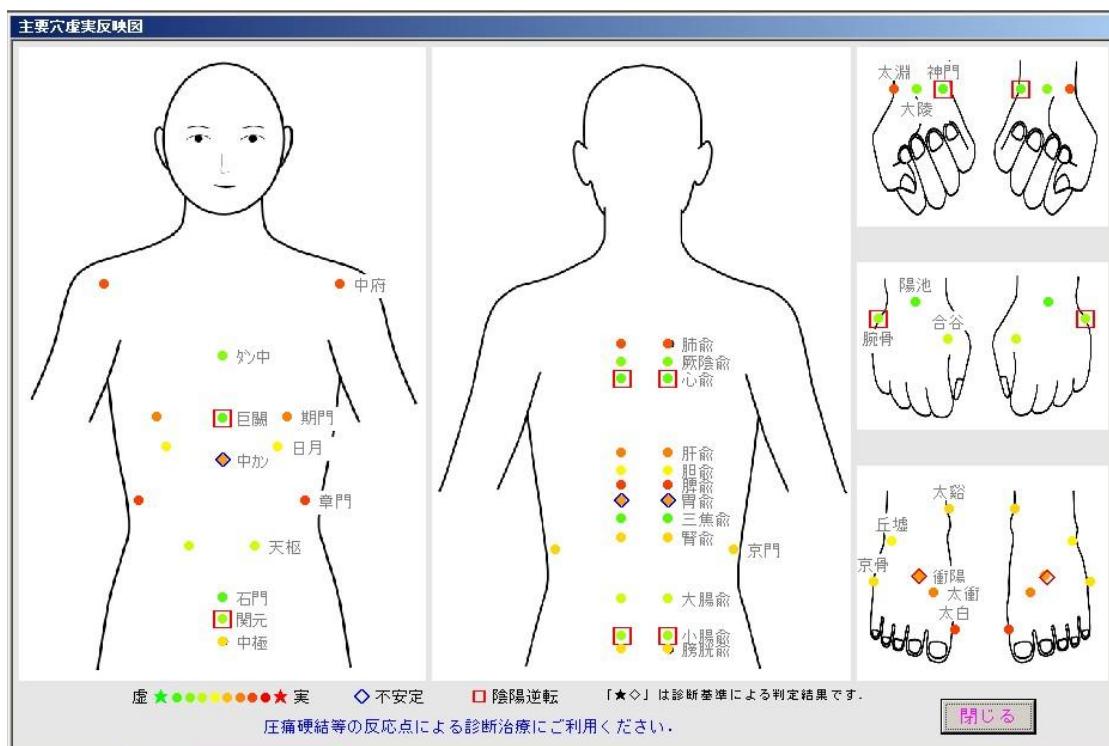


(図-45)

この画面は、脾経に注目(選択)した場合の一例で、他の経絡との相互関係を示しています。

例えば、脾経への刺激は、相生関係で肺経をより実にし、逆転経絡の心経を刺激すると、今度は脾経がさらに実になる可能性があるということが分かります。

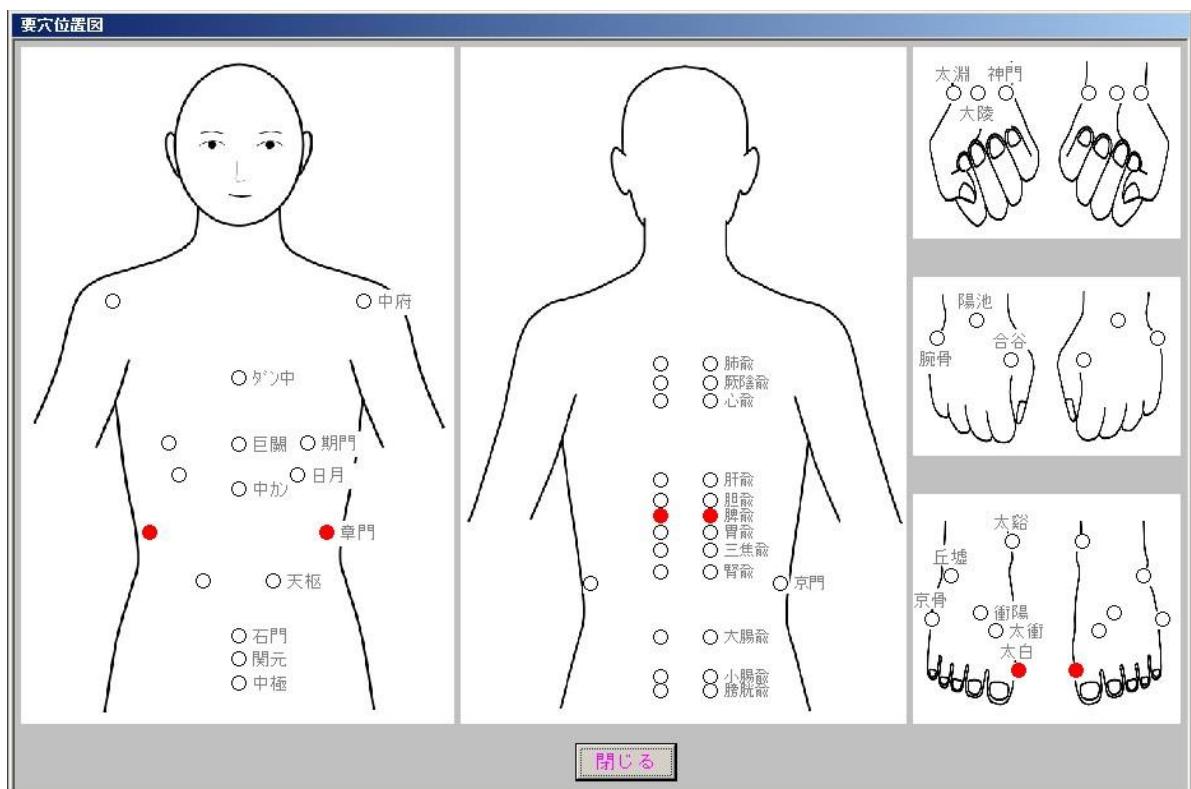
【主要穴虚実反映図】



(図-46)

各種記号★☆◇□の経穴と皮膚上の反応点等とを照合することも、診断に役立ちます。

【要穴位置図】



(図-47)

取穴の参考にしてください。

履歴

個人履歴表示印刷

番号	日付	氏名	備考1
0004	2016.01.09	101 KS	F/78
0005	2016.01.09	102 KK	F/70
0006	2016.01.09	103 SK	F/90
0007	2016.01.09	104 OK	F/78
0008	2016.01.09	105 HT	F/76
0009	2016.01.09	106 YS	F/70
0010	2016.01.09	107 YM	F/76
0011	2016.01.09	108 AR	F/82
0012	2016.01.31	109 MT	F/83
0013	2016.01.31	110 IS	F/86

選択した1人の測定履歴をピックアップします。

次へ 戻る

(図-48)

氏名の前にIDコードが付いていると、その番号順に表示されます。

IDが付いてない場合は、同一氏名が連続するように並びますが、読みとは無関係な順番に表示されます。

上の画面で「0010」を選択すると、下の画面表示になります。

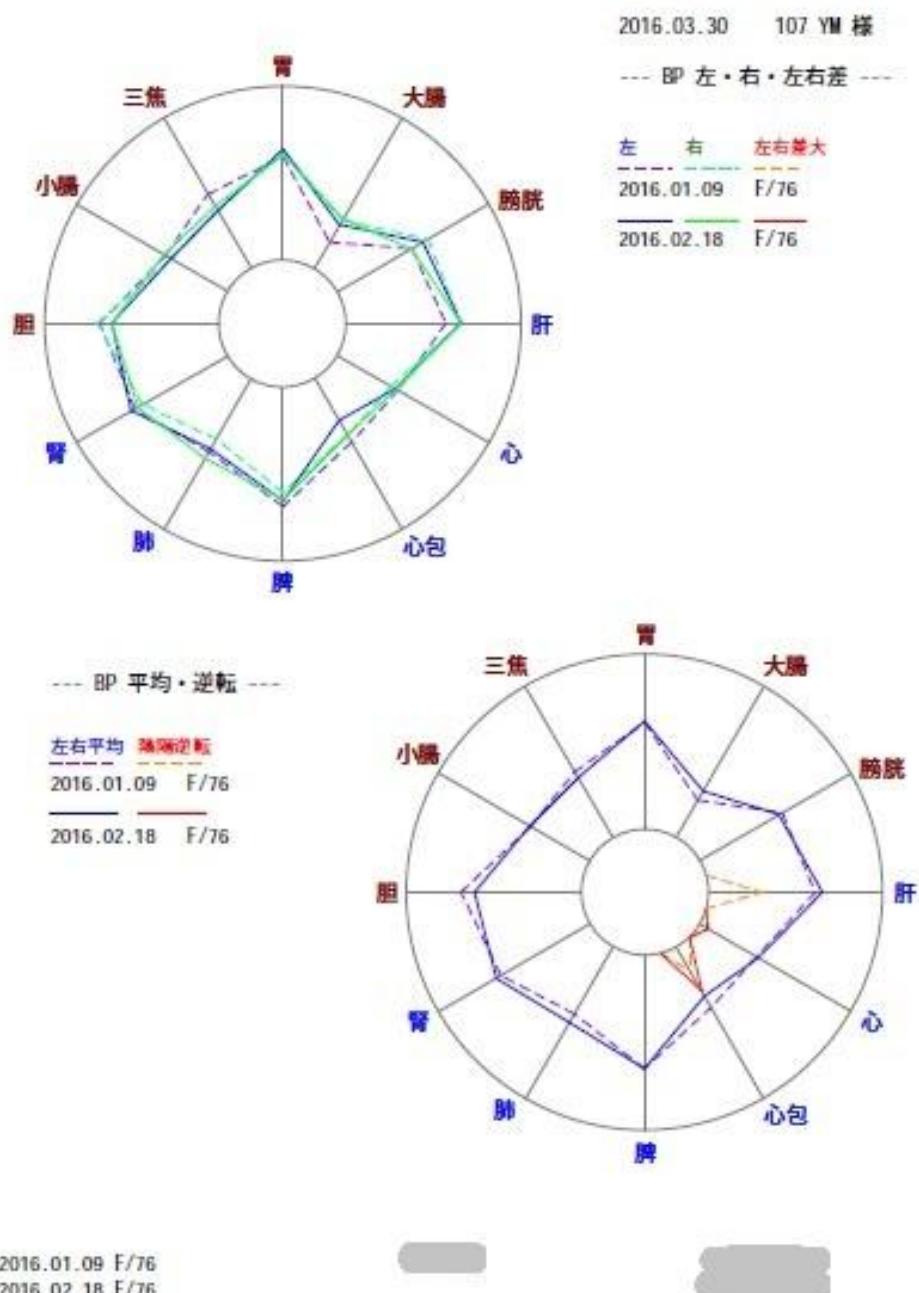
測定結果履歴チャート 107 YM 様

番号	日付	氏名	備考1
0010	2016.01.09	107 YM	F/76
0020	2016.02.18	107 YM	F/76
...	...		
...	...		
...	...		
...	...		
...	...		
...	...		
...	...		
...	...		

前々回 前回 最新 印刷 終了

(図-49)

この画面で、「0010」→「前回」→「0020」→「最新」とクリックすると、次のように表示されます。



(図-50)

校正

校正値自動設定中...		※ データ印刷 : [CTRL]				
		AP_O	AP_D	BP_D	IQ_D	AP_C
①NO_PULSE		23	23	45	0	0
②1.5K		31	1023	559	1023	992
③1.5K-4700pF		34	24	503	621	-10
④1.5K-680pF		24	24	475	75	0
⑤33K		25	677	68	285	652
・ nSD_BP4700		503	・ nSD_BP2UA		3.35	
・ nSD_BP680		475	・ nSD_AP2UA		0.139	
・ nSD_IQ4700		621	・ nSD_AP2IQ		0.437	
・ nSD_IQ680		75				

(図-51)

この画面は、全情報を表示するとすぐ消えます。

情報を表示中に[CTRL]キーを押すと、表示画面を印刷することができます。

測定値の異常など、トラブルの際に画面情報を報告してください。

測定作業開始前に1回以上実行してください。

環境温度等に応じた測定換算値を自動設定します。

被検者1人につき1回ずつ実行することが理想ですが、継続して何人も測定する場合、午前中1回、午後1回というように実行すればOKです。

数値は故障の際の診断用に表示しています。読み取る必要はありません。

終了

ほとんどどの画面でも、[終了]をクリックする代わりに、[ESC]でも終了できます。

測定環境

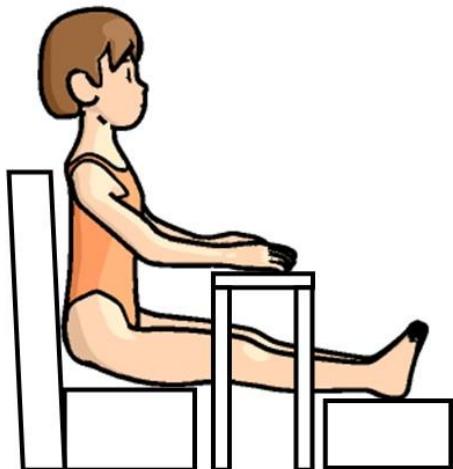
測定室の環境

本システムは、商用電源 100V のラインから混入するノイズを受けてご動作することがあります。

本体装置とPC、および接続されたコード類は、他の電気機器やそれらの電源コードとはなるべく離して配置してください。

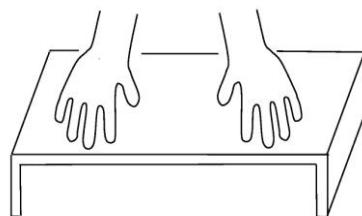
ノートパソコンを使用している場合は、測定中、電源コードを外してバッテリー駆動するのがベストです。

被検者の姿勢

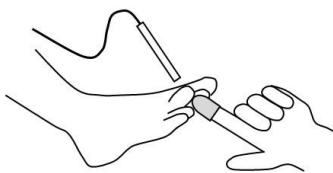


(図-52)

被検者にはこんな姿勢で座ってもらうのがよいでしょう。



(図-53)
テーブルの上で手を開いてもらいます。



(図-54)

被検者の指が隣の指と密着していたら、両者を離して関電極を測定ポイントに当てます。
このとき、検者の指が電流の導体にならないよう指サックを付けることお勧めします。

機器接続



測定装置本体は PC と USB ケーブルで接続します。

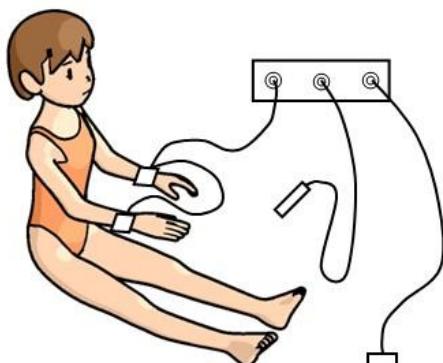
測定装置本体に、関電極、不関電極を接続します。

(図-55)

被検者との接続方法

通常、不関電極は両手または両足のどちらか一方を固定します。同一被検者の測定中、変更してはいけません。

不関電極を両手に固定する場合



不関電極は手首の平らな皮膚面(例えば「外関」あたり)に固定します。

不関電極の場合は、電極の金属面にゲル剤を少量の塗布してから皮膚に固定します。

(図-56)

不関電極を両足に固定する場合

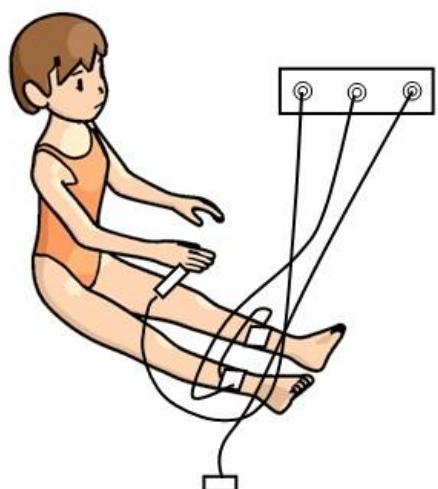


不関電極は、足首の平らな皮膚面(例えば「三陰交」あたり)に固定します。

不関電極の場合は、電極の金属面にゲル剤を少量塗布してから皮膚に固定します。

(図-57)

配線上の注意点



電極やスイッチのコード同士を絡ませたり、人体上でコードを引きまわしたりしないでください。

(コード間または人体間の静電容量により BP 値が変化してしまいます。)

気になる場合は、実測前に測定実験で確認すればよいでしょう。

(図-58)

関電極のセット



(図-59)
関電極本体



(図-60)
ゲルシート貼付前



(図-61)
ゲルシート貼付後

ゲルシートは、円形片を1枚ずつ剥がして、真鍮棒の端面に貼り付けます。

金属面やゲルシートの貼り付け面に、ゴミや油が付着すると剥がれやすくなるので、貼り付け面は指で触れないで貼り付けます。

張り付けた後、ゲルシートの外面を手の皮膚面に押しつけてみて、剥がれないことを確認してください。

ゲルシートは、最初柔らかく透明ですが、日にちが経過するとくすんで硬くなってきます。

透明でも早めに交換してください。

測定練習に使うなら、ゲルシートの皮膚側の面に少量のゲル剤を塗れば、充分測定できます。

測定作業の手順

パソコン接続・電源



測定装置本体をパソコン接続し、電源スイッチをオンする。

→ LED(POW/DATA)ランプが点滅開始し、少し遅れて、左 LED(USB)が 3 秒間程度点滅する。

※USB 通信ドライバー(P.7/34)がインストールされてないと、LED(USB)は点滅しません。

(図-62)

プログラムを起動

簡易経絡測定システム(A-BI)を起動してください。



(図-63)

回路調整

・[設定] → [回路調整]

P.12/34 参照。

また、測定開始後、「読み取り可能レベルオーバー」(P.0 図 0)になったときに測定を一旦中止し、再実行してください。

※「COMx 通信エラー」と表示される場合は、COM 番号の登録(P.0)を実行してください。

校正

・[校正]

測定作業を始める前に(午前・午後各 1 回、少なくとも 1 日 1 回)実行してください。

P.28/34 参照。

氏名・備考入力

※氏名の前に、事前に決めた被検者の ID 番号を入力しておくと、[履歴]表示の際に好都合です。

自分自身の測定のときは「図逆転」。(P.17/34)

順次測定

点滅表示される井穴を順番に測定する

測定中、[←] または [→] で測定ポイントのバック、[shift] で測定中止できます。(P.18/34)

被検者の体质によっては、24 ポイントを順次測定中、読み取り数値が「読み取り可能レベルオーバー」になって、グラフ表示が正しく表示されなくなることがあります。(P. 0 図-0)
 この測定実験では、井穴画像上に赤/水色の点滅で指示されるポイントは無視して構いません。
 被検者の手足の任意井穴、また井穴から離れた任意地点、数点に閾電極を当て測定してください。
 読み取りデジタル値が、例えば 800 以上と大きいポイントがあった場合は、「読み取り可能レベルオーバー」になる惧れがあります。
 その場合は、回路調整で基準電圧を上げてください。(P. 12/34)

チャート表示・印刷

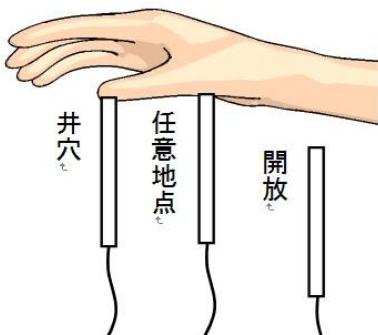
P.0 参照。

～測定練習～

本項目は、被検者の本番測定の前に、ぜひ自分自身の手足で測定練習してくださいというお話しです。

経絡測定を正確に行うには、測定練習をしてコツをつかむ必要があります。

また、室内環境(電気機器や電源配線の密集場所等)によっては電気的ノイズで測定値が不安定になることがあります。ノイズの有無は、次のような実験で確認してください。



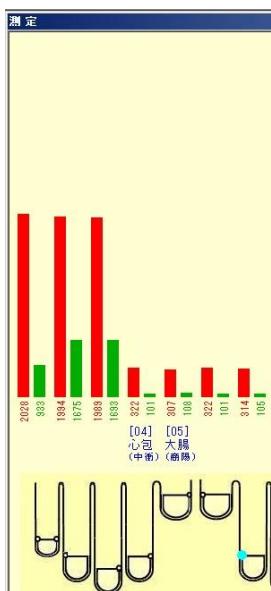
測定練習や測定実験は、通常の「測定」画面で行います。

通常の「測定」画面では、測定ポイント(井穴位置)が赤/水色で点滅します。しかし、この練習・実験時には、指示されたポイント位置は無視してください。閾電極は、任意井穴に当たり、井穴以外の任意地点に当たり、さらに、どこにも当たりず開放状態にしたりして、

測定値を読み取ってください。

(図-64)

任意地点で複数回測定するのは、同一井穴ばかり測定すると、電流刺激により経絡自体が変調して測定値も変化するので、操作の違いで変化したのか実際の変化なのか判別できないからです。



井穴や任意地点の皮膚上で、各ポイントでほぼ一定値が読みれるように、操作練習してください。
 閾電極をなるべく一定圧で皮膚に当て、3秒以上経過してから読み取ると、比較的安定するようです。
 被検者は、閾電極先端のゲルシートの粘り気をわずかに感じる程度がよいようです。何も感じない場合は、ゲルシートが劣化しているかもしれません。交換するか、ゲル剤を少量塗ってください。

閾電極を開放して読み取ると、低い数値が表示されます。低い数値全体がノイズではありませんが、変動が大きい場合、ノイズが多い室内環境であると推測できます。

測定画面は、1画面で 24 ポイント測定すると登録されてしまうので、途中で[→](通常画像時)または[←](逆転画像時)キーで、バックしてください。

(図-65)

【更新履歴】

2016.03.30 装置名「経絡読取装置」「A-AMI」→「簡易経絡読取装置」「A-BI」に変更。プログラム改造。

簡易経絡測定(A-BI)システム説明書

〒214-0008
川崎市多摩区菅北浦 2-6-8-106
経絡測定研究会 神谷 博之
TEL 044-946-4384
FAX 044-946-4385
http://nico2.info/ami_project/